

トライアングル

東日本旅客鉄道労働組合
東京地方本部東京支部
浜松町駅分会機関紙

第1号

2018年1月10日

シーサイド ステーション ～浜松町通信～



発行人 小島 拓也

浜松町駅分会では、9月の施策実施に伴い出札が3窓から2窓になり、様々な問題点があげられています。分会大会では組合員の悲痛な声があがりました。

- ・お客さまをお待たせしてしまう機会が増えた。
- ・今までは後方に人がいたが、今はいなくなったので休憩中の方に聞かざるを得ない状況になってしまった。
- ・窓口に入る人が若手しかいない勤務が出てきている。

今回の施策実施にあたり、分会では2徹3日勤から2徹1日勤へと体制変更された中で一番危惧していたのは後方要員がいなくなることです。

このままでは窓口の徒列拡大やサービス面の低下が予想されるので何か検証できないかを議論しました。検証を行う上で必要なデータ、組合員の生の声を集める項目として、分会では券売機の呼び出し回数のチェックを行うこととしました。後方に誰もいないため、窓口にいる組合員が対応しなければいけない、また対応に時間がかかり結果としてサービスの低下につながるのではと考えたからです。組合員の皆様にはご協力感謝いたします。

今後も分会では検証を行い、様々な問題点に立ち向かっていきます。

全分会が検証運動を推し進めよう！

職場の課題が解決されない限り新しい施策は受けられない！
組合案の実現に向けて結集しよう！